

アス合材製造コスト上昇 道路舗装各社が対応急ぐ

アスファルト合材の製造コストが上昇している状況を受け、道路舗装各社が対応を迫られている。前田道路は4月1日の出荷分から、ストレートアスファルト（ストアス）の価格上昇分を販売価格に転嫁する。世紀東急工業も今後の市場動向を見据え価格の引き上げに踏み切る。ユーザー向けに値上げを打ち出す企業が相次ぐ一方、砕石やタンブラックなど取引先からの値上げ要請にも前向きに対応していく方針だ。

＝1面参照

中東情勢の緊迫で原油価格の見方が強い。

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）が23日に通達した「アスファルト合材の安定供給維持に向けた適正価格取引のお願い」を受け、多くの会員各社が対応を急いでいる。前田道路は緊急措置として、4月以降の価格転嫁を表明。有事前の水準に落ち着けば速やかに元の価格に戻すとしている。

東亜道路工業は「安定した供給と品質維持に向け価格改定を実施している」状況で、世紀東急工業も「今後は1カ月ごとに価格変動の状況を見ながら販売価格に反映し、ユーザーに理解を求めていく」

としている。複数の企業が単価上昇分を販売価格に反映する方針を打ち出している。一方、多くの企業はステークホルダーから値上げ要請があった場合、丁寧に対応していく姿勢だ。東亜道路工業は「砕石やタンブ、油脂関連など取引先からの値上げ要請と真摯（しんし）に向き合う」としている。

◇

経済調査会（森北佳昭理事長）によると、ストアス価格（3月調査）は東京地区で1ヶ月前より9万7000円と、前月から4000円上昇している。ただ調査時点で中東情勢は反映されていない。4月は一気に5万円程度上昇する度の上昇懸念がある。

A重油も東京地区で、3月上旬時点は1キロ当たり9万7500円だったが、中旬までに12万3500円まで上昇した。政府の激変緩和措置で実質価格はやや低下する見通しだが、中東産原油の輸入再開はめどが立っておらず、供給への警戒感は根強い。

